

☆沖縄のことを自分のこととして

みなさんは沖縄のこと、どう思っていますか？ ー

いま沖縄・辺野古で起こっていること

- ◇いま辺野古で、政府は沖縄県民の意志を無視し、抵抗行動を押さえ込んで普天間基地移設に向けてボーリング調査を日々進めています。
- ◇ことの起こりは、二〇一三年一二月、仲井真前沖縄知事が県民との公約を破って普天間基地の辺野古への移設を容認したことに始まりました。
- ◇それに対し沖縄県民の怒りが爆発し、昨年の名護市長選挙、沖縄県知事選挙、衆議院議員選挙で移設反対を唱えた候補者が全員当選し、オール沖縄が移設反対で結束しています。

これは自分には関係ない、無関心でいいのか？

- ◇いま国土のわずか0・6%の沖縄に在日米軍基地の74%が集中しています。
- ◇かつて独立していた琉球王国は一八七九年強制的に日本に組み入れられ沖縄県とされました。それが太平洋戦争では本土防衛の捨て石とされ、二十万人以上の人が沖縄戦で犠牲となりました。
- ◇戦争が終わると、日本は議会から沖縄の議員を追い出し、一九五二年、本土が独立しても、沖縄は見捨てられ米軍の施政権下に置き去りになりました。そして、米軍は銃剣とブルドーザーで県民の土地を奪い現在の軍事基地を作ったのです。
- ◇このような理不尽な差別に、私たち浜松市民は「関係ない、関心ない」という態度でよいのでしょうか。

同じ日本国民として

- ◇いま、沖縄の新聞を見ると、ほとんど毎日辺野古の基地移設問題を報じています。しかし、本土のマスコミ(特にNHK)はほとんどこれを伝えません。
- ◇この本土の姿を沖縄の人たちは自分たちへの差別と受けとめ、本当に悔しい、悲しい思いに押しつぶされそうに感じています。私たちは沖縄の人達にこのように思わせておいてよいのでしょうか？余りにも冷淡ではありませんか？
- ◇法の下での平等を謳った憲法第十四条(*)に照らしても、沖縄の人たちは差別の下にあります。無関心は無意識の差別につながります。他人ごととしてではなく、自分の事として受け止めようではありませんか。

(※裏面の条文を見て下さい)

二〇一五年五月十日(日) 護憲平和行進(通算579回目)

★浜松市憲法を守る会 事務局 浜松市中区紺屋町三〇一―一五
★月例護憲平和行進 毎月第二日曜日・午後一時・浜松市役所正面玄関集合

日本国憲法第十四条

すべて国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない。